指導の狙い 相手や目的に応じて，自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話す。

問題の概要 A3 スピーチの内容の取り上げ方のよいところを説明したものとして適切なものを選択する。

学習指導要領における領域・内容 〔第3学年及び第4学年〕 A話すこと・聞くこと ア

授業アイディア例

例 は出題した趣旨を踏まえ単元化して指導する例

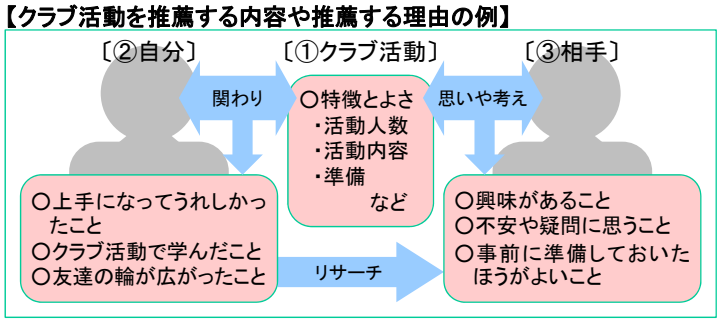
例 事物の特徴や自分との関わり，事物に対する相手の思いや考えを取り上げて推薦する。

第一次
- ○ これまでに誰に，どんなことを，どのように推薦してきたかを話し合う。
- ○ 学習課題「4年生に自分が入っているクラブ活動をすいせんしよう」を設定し，学習計画を立てる。

第二次
- ○ 自分が入っているクラブ活動を推薦する内容や推薦する理由を考える。
  - ①クラブ活動の特徴とよさ
  - ②クラブ活動と自分との関わり
  - ③クラブ活動に対する相手の思いや考え

第三次
- ○ アウトライン原稿と，それに合わせて示す資料などを書いたカードを関係付ける。
- ○ リハーサルを行ったあと，実際に4年生に推薦し，相互評価する。

【クラブ活動を推薦する内容や推薦する理由の例】



【アウトライン原稿とそれに合わせて示す資料などとを関係付ける例】

①クラブ活動の特徴とよさ
- ○人数，場所，内容，方法，準備・・・
- ○広い運動場で思いっきり投げたり，打ったり・・・

②クラブ活動と自分との関わり
- ○ボールを投げるスピードが速くなった・・・
- ○チームワークの大切さを学んだ・・・

③クラブ活動に対する相手の思いや考え
- ○未経験者も多いので安心して活動できる・・・
- ○事前にルールなどを知っていたほうがよい・・・

・年間計画（表）
・実技・実演
・友達への聞き取り調査（表）
・4年生への質問紙調査（グラフ）

留意点 推薦は，紹介を発展させたものであり，伝えたいという自分の目的にとどまらず，相手の要求や目的にも合致した事物や人物を取り上げることが必要である。小学校学習指導要領解説国語編（平成20年告示）では，「A話すこと・聞くこと」の〔第1学年及び第2学年〕から紹介を取り上げていることを踏まえながら，系統的に指導することが大切である。

指導の狙い 目的や意図に応じ，表現の効果を考えて書き換える。

問題の概要 A5 主語を置き換えて記事の下書きを書き直す。

学習指導要領における領域・内容 〔第5学年及び第6学年〕 B書くこと オ 言語事項（1）オ（ア）

授業アイディア例

例 は出題した趣旨を踏まえ単元化して指導する例

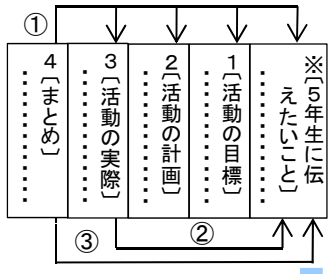
例 目的や相手に応じ，分かりやすい報告文を書くために構成表や下書きを推敲する。

第一次
- ○ 修学旅行での自由行動の様子を振り返り，これから経験する5年生に伝えておいたほうがよいと思う内容について話し合う。
- ○ 学習課題「5年生に分かりやすい活動報告文を書こう」を設定し，学習計画を立てる。

第二次
- ○ 活動報告文に書く事柄を収集し，整理した上で構成表を書く。
- ○ 書いた構成表を目的や相手に応じるという観点から推敲し，下書きをする。
- ○ 下書きを目的や相手に応じるという観点から推敲し，清書する。

第三次
- ○ 書いた活動報告文を交流し，目的や相手に応じた表現の効果について相互評価する。

■推敲1【構成表を〈目的〉や〈相手〉に応じて推敲する例】



＊丸数字は下の観点と対応

〈目的〉に応じるという観点
- ①〔まとめ〕は，〔・・・目標〕〔・・・計画〕〔・・・実際〕のそれぞれと関係付けた内容であるか。

〈相手〉に応じるという観点
- ②〔・・・実際〕は，〔5年生に伝えたいこと〕と関係付けた内容であるか。
- ③〔まとめ〕は，〔5年生に伝えたいこと〕と関係付けた内容であるか。

■推敲2【下書きを〈目的〉や〈相手〉に応じて推敲する例】

1〔活動の目標〕
～（中略）～
4〔まとめ〕
わたしたちの活動から得られた成果は・・・ということです。反省としては，・・・ということです。これらを参考にして，5年生は・・・・・といったことに気を付ける必要があると思います。
～（下書きが続く）～

〈目的〉に応じるという観点
- ○〔・・・目標〕〔・・・計画〕〔・・・実際〕〔まとめ〕は，文章全体としてつながりがあるか。

〈相手〉に応じるという観点
- ○これから経験する5年生に活動したことが理解できるか。
- ○5年生に分かりやすい言葉や表などを用いているか。

留意点 小学校学習指導要領解説国語編（平成20年告示）では，「B書くこと」の言語活動例として，〔第1学年及び第2学年〕において「経験したことを報告する文章」を，〔第3学年及び第4学年〕において「疑問に思ったことを調べて，報告する文章」を取り上げている。報告する目的に応じて系統的に指導することが大切である。

指導の狙い　必要な情報を得るために，新聞記事を効果的に読む。

問題の概要
A⑥一　新聞記事の構成を説明したものとして適切なものを選択する。
A⑥二　新聞記事の中で問題となっている事実を捉えて書く。

学習指導要領における領域・内容　〔第5学年及び第6学年〕　C読むこと　オ

授業アイディア例

例1は出題した内容を取り立てて指導する例　　例2は出題した趣旨を踏まえ単元化して指導する例

例1　新聞の報道記事の特徴の一つである，逆三角形の構成について注意しながら読む。

1　新聞の報道記事を読み，見出し・リード・本文に分けて切り取り，模造紙に貼る。
例：平成23年度調査A⑥ 新聞記事
小学生用の新聞の記事など

↓

2　見出し・リード・本文のそれぞれの内容を「出来事・事実」，「書き手の思いや考え」に区別し，カードに簡潔に書き出す。
書いたカードを順序よく模造紙に貼る。

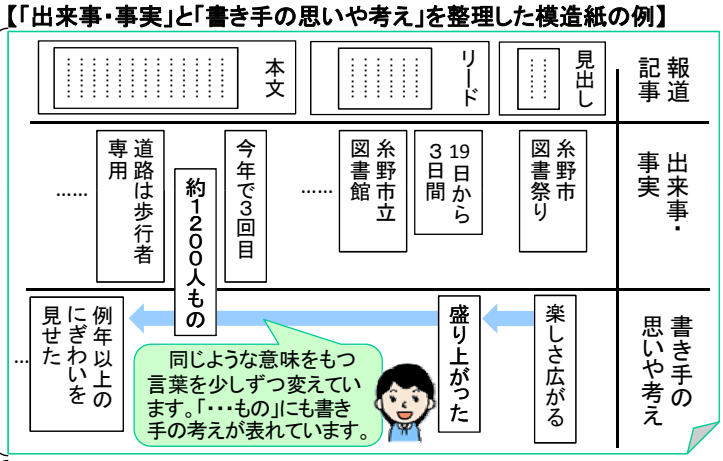
↓

3　「出来事・事実」と「書き手の思いや考え」とを関係付けながら，分かったことを話し合う。

↓

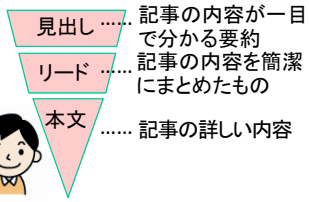
4　新聞の報道記事の特徴の一つである，逆三角形の構成についてまとめる。

【「出来事・事実」と「書き手の思いや考え」を整理した模造紙の例】



本文だけでなく，見出しやリードの短い文や文章の中からも，書き手の思いや考えが伝わってきます。

【逆三角形の構成】



報道記事は，右のような逆三角形の構成になっていることが分かりました。それぞれを関係付けるとともに，写真や図表なども合わせて読むことが大切だと思います。

例2　新聞を比べて読み，編集の仕方や記事の書き方について分かったことを報告する。

第一次
○　新聞は，社会・経済・政治・教育・文化・スポーツなどの内容が取り上げられていることを話し合う。
○　学習課題「2社の小学生用の新聞を比べて読み，分かったことを報告しよう」を設定し，学習計画を立てる。（教師が，小学生用の新聞を二日分用意する。）

↓

第二次
○　2社の小学生用の新聞に共通する記事をモデルとして読み，次のような比べる事柄を設定する。
①見出しの内容　②リードや本文の内容
③分量及び構成
○　各グループで2社に共通する記事を分担し，比べる事柄に合わせて分かったことをワークシートに書く。
○　各グループで「内容や構成の面から見た分かりやすさ」，「書き手のものの見方・考え方」の二つの点について考えたことをまとめる。

↓

第三次
○　新聞の編集の仕方や記事の書き方について分かったことや考えたことを報告し合い，まとめる。

【2社に共通の記事を比べて整理したワークシートの例】

比べる事柄		見出しの内容	リードや本文の内容	分量及び構成
○○選手が△△大会で優勝したこと	A新聞	「世界一○○選手」と書いている。	・リードには、○○選手が□□で行われた△△大会で優勝したことを書いている。 ・本文には、○○選手の当日の朝からの行動などを順序よく書いている。	・約二○○○文字 ・これまでの活躍の歴史を年表で示している。
	B新聞	「○○選手世界を驚かす」と書いている。	・本文には、優勝を決めたときの○○選手の様子や、それを見守る人の様子を中心に書いている。	・約四○○○文字 ・過去の活躍や、インタビューの記事を、顔写真入りでまとめている。
考えたこと		・事実のみであったり、書き手の思いや考えを加えたりしている。	・リードは、どちらも簡潔で分かりやすい。 ・A新聞は、本人の一日の様子を中心に書いているのに対し、B新聞は、わずかな時間の人々の動きをくわしく書いている。	・分量は、B新聞の方が多く、選手の活躍を広く伝えようとする書き手の考え方が分かる。

留意点　新聞は，目的に応じて摘読したり，分析的に読んだり，比べて読んだりすることが大切である。そのことにより，自分の考えを広げたり，深めたりする態度を育てることが重要である。なお，小学校学習指導要領解説国語編（平成20年告示）では，〔第3学年及び第4学年〕の「B書くこと」の言語活動例として，「学級新聞などに表したりすること」を位置付けている。新聞を読む能力と書く能力とを連動させながら系統的に指導していくことが大切である。

指導の狙い 話し手の意図を捉えながら聞き，司会や記録などの役割を果たしながら計画的に話し合う。

問題の概要 B1二（1） 司会として発言を聞き，意見の共通点と相違点を整理して書く。
B1二（2） 司会の発言の意図を説明したものとして適切なものを選択する。

学習指導要領における領域・内容 〔第5学年及び第6学年〕 A話すこと・聞くこと イ ウ

授業アイディア例

例1は出題した内容を取り立てて指導する例　例2は出題した趣旨を踏まえ単元化して指導する例

例1 協議における司会の役割を確認し，目的や意図を明確にして話合いを進める。

1 協議（一つの結論に導く話合い）の司会の役割について確認する。

↓

2 ワークシートにおける話合いの流れを踏まえ，［ア］に入る司会の発言を話し言葉で書く。

↓

3 ［ア］に書いた司会の発言の意図，よい点や問題点についてグループで話し合う。

↓

4 司会は意図をもって発言することを確認した上で，実際にグループで［ア］の続きの話合いを行い，その展開の違いをまとめる。

【協議のワークシートの例】

～（中略）～
A 昼休みの過ごし方としては、できるだけ外で遊ぶようにしたらよいと思います。それは、体を動かすことで気持ちよくなるからです。
司会 Aさんは、「外で遊ぶこと」を提案していますが、皆さんは、どう考えますか。
B Aさんに賛成します。外で遊ぶと気持ちよいのもそうですが、加えて体力が向上するからです。
C わたしは、Aさんの提案に反対です。たしかに、外で遊ぶと気持ちよくなると思います。でも、本が好きな人たちは読書をすることで気分がよくなる人もいます。
～（意見が続く）～
司会 ア
～（話合いが続く）～

【［ア］の中に入る例として考えられる司会の発言】

【共通点・ちがう点を整理する場合】
BさんとCさんの考えは，外で遊ぶと気持ちがよいという点が共通しています。でも，気持ちよさというのは，人によってちがうことに気を配ったほうがよいという考えがちがいます。皆さんはどう考えますか。

【考えを確かめたり，深めたりする場合】
・Cさんは，昼休みに外遊びをする必要はなく，自由に過ごすという考えですか。
・Cさんは，Bさんが考える体力向上についてどう思いますか。
・Cさんと同じような考えの人はいますか。

例2 協議と討論における司会として様々な状況に対応しながら，話合いをよりよい方向に導く。

第一次
○ 以前，学級で行った話合いのビデオを視聴し，司会の進め方の問題点について話し合う。
○ 学習課題「話合いの様々な状況に対応する司会名人になろう」を設定し，学習計画を立てる。

↓

第二次
○ 学級を協議と討論の二つのグループに分け，議題に沿って話合いをする。
○ 話合いの状況を捉え，ヒントカードを使って発言を考え，交代しながら話合いを進める。（司会はグループ全員が行うこととし，話合いの様子をビデオで撮影する。）

↓

第三次
○ ビデオを視聴し，協議と討論の司会の進め方として大切なことを話し合う。
○ 話合いの様々な状況に対応しながら，進める司会の役割を果たすことについてまとめる。

【協議の例】

「学級の旗のデザイン」を決める
～（中略）～
A 学級名や学級目標を入れるとよいと思います。…
B 全員の顔の絵を入れたほうがよいと思います。…
C 一人一人の目標を入れたほうがよいと思います。…
～（意見が続く）～
司会 ヒントカード
～（話合いが続く）～

【ヒントカードの説明】
下記の①から⑥のように司会の進め方のポイントをまとめたもの

【ヒントカードの例】

①【意見や提案を整理する】これまでに出た考えをまとめごとに分ける。
②【理由や根きょを求める】具体的な理由や根きょを明確にするように求める。
③【多くの人に発言を求める】まだ考えを述べていない人に発言を求める。
④【出された考えを比べる】・出された考えのよい点と問題点を明確にする。・出された考えの共通点やちがう点を明確にする。
⑤【合意を得て結論に導く】考えを出し切ったことを確認し、多数決をとる。
⑥【時間に気を配る】○分以内に結論をまとめて、話合いを終わる。

【協議における司会の進め方について考えたこと】
協議における司会は，多くの人に考えや理由を求めた上で，話合いを公平な立場で進めることが大切だと思いました。

【討論における司会の進め方について考えたこと】
討論における司会は，様々な立場の考えや理由を大切にし，それらを関係付けながら話合いを進めることが重要だと思いました。

留意点 小学校学習指導要領解説国語編（平成20年告示）では，「A話すこと・聞くこと」の〔第1学年及び第2学年〕において，互いの話を集中して聞き，その内容を話合いの流れの中で位置付け，今後どのように展開するのかなどを考えるように指導することを求めている。〔第3学年及び第4学年〕においては，進行表に沿って進行することを学び，徐々に話合いが目的に応じて適切に進行するように提案者や参加者の発言を整理したり，促したり，まとめたりすることができるように指導することを求めている。第1学年から計画的に指導することが大切である。

指導の狙い　目的や意図に応じて，自分の考えを効果的に書く。

問題の概要
B②一　提案に対する相手の意見を取り入れて，自分の考えについて理由を書く。
B②二　提案に対する相手の意見を取り下げて，自分の考えと理由を書く。

学習指導要領における領域・内容　〔第5学年及び第6学年〕　B書くこと　ア　エ　　言語事項（1）オ（ウ）

授業アイディア例

例1 は出題した内容を取り立てて指導する例　　例2 は出題した趣旨を踏まえ単元化して指導する例

例1　自分の提案の理由を明確にして，相手が納得できるような提案文を書く。

1　給食の時間を楽しく過ごすための提案とその理由を各自考え，それらを区別しながらカードに書く。

2　各自が書いたカードをグループで読み合い，互いの考えの共通点や相違点を話し合う。

3　各自が書いた理由のカードを三つの観点に当てはめ，よりよい理由になるように書き換えたり，書き足したりする。

4　理由を明確に表す際の表現について話し合った上で，200字程度の提案文を書き，相互評価する。

【AさんとBさんが書いた提案とその理由のカード】

〈Aさんの考え〉
〔提案〕たてわり班に分かれ，給食をいっしょに食べる。
- 〔理由①〕もっと下級生と交流したいと答えた6年生は約8割いる。
- 〔理由②〕いっしょに給食を食べることで，下級生とも仲よくなれる。

〈Bさんの考え〉
〔提案〕給食の時間に音楽を流す。
- 〔理由ア〕音楽が流れていたときに会話がはずんだことがあった。
- 〔理由イ〕音楽を聞くことが好きと答えた6年生は約7割いる。

【理由の三つの観点】

【1】調査（データ）に基づくものか。　・・・〔理由①・イ〕
【2】体験（エピソード）に基づくものか。　・・・〔理由ア〕
【3】目的達成により，全体に効果をもたらすものか。　・・・〔理由②〕

【理由を明確に表す際の表現の例】

一つめの理由は，～調査によるものである。　・・・　上記【1】と関連
二つめの理由は，～体験に基づいている。　・・・　上記【2】と関連
三つめの理由は，～と考えるからである。　・・・　上記【3】と関連
＊複数の理由を組み合わせて用いるとより効果的です。

教師

例2　自分の提案に対する他者の質問を取り入れ，相手が納得できるような提案文を書く。

第一次
○　学級文庫の利用についての問題点を話し合う。
○　学習課題「よりよい学級文庫にするために相手が納得できる提案文を書こう」を設定し，学習計画を立てる。

第二次
○　よりよい学級文庫にするための考えを各自ノートに200字程度で書く。
○　書いたものをグループで交流し，一人一人の考えに対して，疑問に思ったことなどを質問し合う。
○　グループで出された質問を「提案の中で踏まえておきたい三つのポイント」に当てはめて整理する。

第三次
○「他者からの質問を取り入れる際の表現の例」を用いて，400字程度の提案文に書き広げ，相互評価する。

【Aさんが最初に書いた提案文（例）】

みんなが家からおすすめの本を持ってきて、学級文庫の本の入れ替えをしたらいいと思います。友達がすすめる本であれば、読んでみようという気になり、身近にある学級文庫を利用する人が増えると考えるからです。
～（提案文が続く）～

【グループで出された質問の例】

①ページが破れたり、本が汚れたりしてしまうことはありませんか。
②一人何冊ぐらい持ってくることを考えていますか。
③みんなが持ってきた本を置くスペースはありますか。
④実際におすすめの本を持っていない人はどうしますか。
⑤まんがなど、どんな種類の本でもよいと考えていますか。

【提案の中で踏まえておきたい三つのポイント】

【1】提案には、問題となりそうな点はないか。
↓〔右記のグループで出された質問①〕
【2】提案は、数量や時間、場所などが具体的か。
↓〔右記のグループで出された質問②・⑤〕
【3】提案は、実現の可能性が高く、効果を上げることができそうか。
↓〔右記のグループで出された質問③・④〕

【他者からの質問を取り入れる際の表現の例】

○　確かに～という考えもあるでしょう。しかし、・・・・
○　～と考える人もいるでしょう。それに対しては・・・・

教師

【Aさんが書き広げた提案文（例）】

わたしは、学級文庫をよりよいものにするために、・・・・・・を提案します。
なぜなら、・・・・・・・・と考えるからです。
具体的には、・・・・・・・・・・・という方法をとりたいと思います。
しかし、この案に対して、・・・・・・・・・と考える人もいるでしょう。それに対しては、・・・・・・と考えます。
～（提案文が続く）～

留意点　小学校学習指導要領解説国語編（平成20年告示）では，「B書くこと」の指導事項として「交流に関する指導事項」を設定している。取材の段階から，構成，記述，推敲，交流の一連の過程を重視した指導が大切である。特に，交流は指導の最後に位置付けるだけではなく，それぞれの段階でよい点や改善点を見付けて感想を伝えたり，意見を述べ合ったりすることを全学年を通じて重視していくことが大切である。

指導の狙い 伝記を比べて読み，優れた叙述を多面的に捉えたり，自分の考えを深めたりする。

問題の概要
B3一　二つの伝記を比べて読み，登場人物の心情を表している言葉や文を抜き出して書く。
B3二　二つの伝記を比べて読み，それぞれの書き手を適切に選択して書いたり，植村直己を表す言葉をそれぞれ抜き出して書いたりする。

学習指導要領における領域・内容〔第5学年及び第6学年〕　C読むこと　ウ　オ

授業アイディア例

例1は出題した内容を取り立てて指導する例　例2は出題した趣旨を踏まえ単元化して指導する例

例1　自伝(書き手:本人)と評伝(書き手:第三者)とを比べて読み，書き手や書き表し方の特徴を捉える。

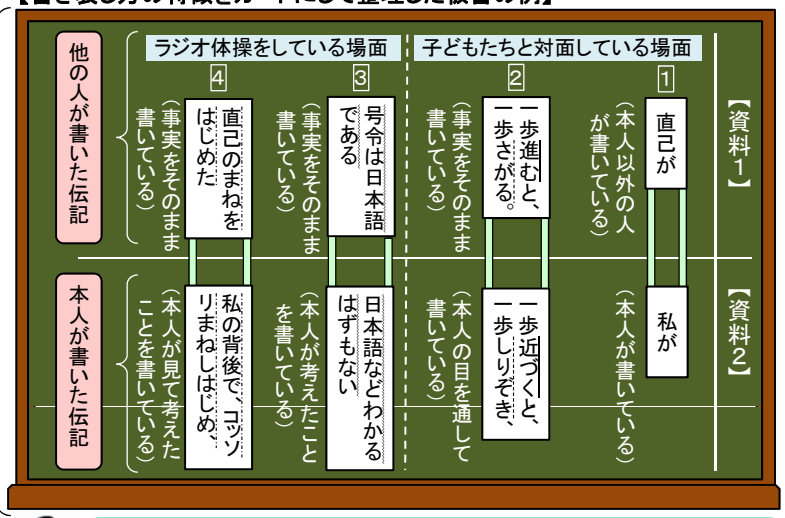
1　自伝と評伝とを比べて読み，同じような場面を描写している箇所を対応させた上でラインマーカーを引く。
例:平成23年度調査B3「植村直己」の2作
【資料1】,【資料2】

2　ラインマーカーを引いた箇所の中で，同じような内容についての描写を簡潔にカードに書き出す。

3　人物の行動や心情の描写に注目して，サイドラインを引きながら，自伝と評伝の違いについて話し合う。

4　自伝と評伝の書き手の違いや書き表し方の特徴についてまとめる。

【書き表し方の特徴をカードにして整理した板書の例】



人物の呼び方に着目すると，「私が」(一人称)と「直己が」(三人称)という表現のちがいを発見することができ，書き手である人物が分かります。

人物の行動や心情の描写としては，自分が見たり考えたりしたのか，他者が見たり考えたりしたのかという視点のちがいによって表現は変わります。

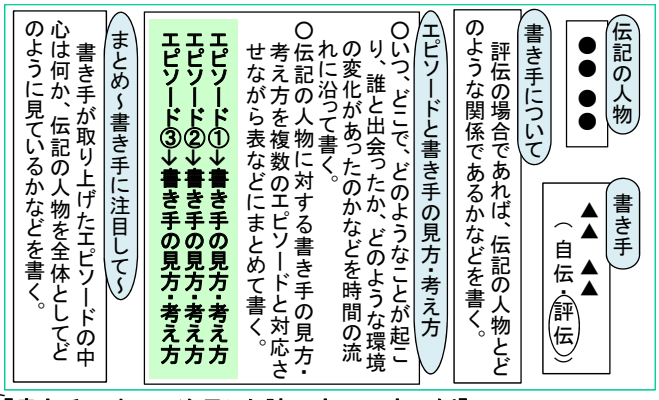
例2　伝記を比べて読み，書き手の違いによる人物の見方・考え方などをまとめて交流する。

第一次
○　これまでに読んだ伝記の中で心に残っている人物について話し合う。
○　自伝や評伝などの違いや，評伝でも複数の書き手が存在することを話し合う。
○　学習課題「伝記の書き手のちがいによる，人物の見方や考え方，エピソードの取り上げ方のちがいを比べて読もう」を設定し，学習計画を立てる。

第二次
○　興味のある人物ごとにグループを作り，書き手の違う伝記を分担して読み，伝記の人物についてのエピソードや，書き手の見方・考え方などをワークシートにまとめる。

第三次
○　ワークシートにまとめた内容を，グループや全体で交流する。
○　伝記の人物を捉えるために書き手に注目して読んだり，自分の知識・経験などと重ねて評価しながら読んだりすることが大切であることをまとめる。

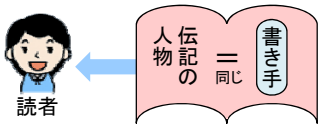
【伝記を読んでまとめたワークシートの例】



【書き手の違いに注目した読み方の工夫の例】

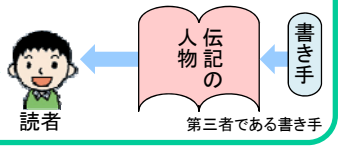
①自伝(書き手:本人)

自伝は，本人が書いたものなので，自分も同じような気持ちになって，書き手と対話するように読み進めることができます。



②評伝(書き手:第三者)

評伝は，書き手と伝記の人物の関係や，書き手の見方・考え方に気を付けながら読み進めることが大切です。



留意点　伝記は，エピソードを物語るために文学的な描写が用いられるだけでなく，人物の生き方などを評価するために説明の表現も用いられるという特徴がある。そのため，「説明的な文章」と「文学的な文章」のそれぞれの読むことの能力が必要となる。伝記の表現方法の特徴は，小学校学習指導要領解説国語編(平成20年告示)の〔第5学年及び第6学年〕の「B書くこと」の言語活動例で取り上げている「随筆」の表現方法と共通性がある。伝記を読むことを通して学んだ表現方法を，随筆を書くことに活用できるようにすることが重要である。